

茅風



— Breeze from the field of thatch-grass —

2022年6月16日
森林塾青水
事務局便り
茅風通信66号



3年振りに行われた野焼き(5月1日)

目次

■ 2月～5月の活動報告(事務局).....	1
■ 第21回定期総会開催報告.....	2
◆新年度新規・重点項目	
◆2022年度の役員構成	
◆2022度の主な活動計画・日程	
■ セミナー報告「小さな地球のめざすもの」	
◇講師 林 良樹(NPO 法人「小さな地球」代表理事)	
■ 2021 定例活動⑧.....	5
「雪原トレッキングと自然体験」	
◆開催報告(稲 貴夫)	
■ 2022定例活動①.....	6
「野焼き」	
◆開催報告(草野 洋)	
■ 東京学習会.....	7
「【百年杉】とわたしたち」	
◇講師 加藤 政実(加藤木材代表取締役)	
■ 麗澤中学校樹木観察会.....	8
□ 藤原だより(北山 郁人).....	9
火災発生・記帳台完成・茅の搬出	
■ 野守のつぶやき(清水 英毅).....	10
編集後記(敬称略)	

2022. 2～2022. 6 の活動報告

【2月】

- 環境省委託の里地里山の保全活動に関するヒアリング調査を受ける。活動の紹介が主。

【3月】

- 7日 茅風65号発行 9ページ。
- 12日、13日 定例プログラム「上ノ原雪中トレッキングと自然観察体験実施 参加者 23名(宿泊者 14、別途宿泊者 2、日帰り 7)、非会員が 12名、また県内参加者 8名。雪原散策、冬芽観察に加え、メープルシロップづくりにも挑戦、10㍓採取。
- 26日 東京学習会開催。講師は「百年杉」の普及活動をしている加藤木材加藤政実代表。講師含め 27名参加。

【4月】

- 9日 定例総会開催。会員 58名中出席連絡 24名 欠席連絡(委任) 21名
- 9日 総会後にセミナー実施。講題は「小さな地球のめざすものと今すすめている活動」、講師は一般社団法人小さな地球林良樹代表。
- 29日、30日 山の口開けおよび定例プログラム「野焼き」実施。参加者 46名、うち会員 22 会友 24。参加者は、植物やランドスケープ・造園、野鳥などの専門家、野焼きの研究者、写

真家、学校教師など多士済済。また、群馬県内より 13名(内、みなかみ町より 2名)の参加をいただいた他、県内、町内より飛び入りで 6名の方々の参加があった。

- 29日、野焼きに先立ち、山の口開け行事を実施。同時に、この度、新しく作った「飲水思源」の標柱の除幕式を行った。
- 30日 野焼き後、茅葺き文化協会から紹介を受けた、福島県建築士事務所協会の理事が茅葺職人を伴って来訪、茅の引き取り商談がまとまった。

【5月】

- 全国草原の里市町村連絡協議会の「未来に残したい草原草原の里100選」に選定された。
- 18日 上ノ原で火災発生、入口看板付近が延焼したが、幸いにも大きな被害なし。
- 19日 上ノ原への来訪者に、青水の活動とフィールドを理解いただくための記帳台を設置。
- 28日 麗澤中学校の樹木観察会が行われ、青水から 15名がインストラクターとして生徒 165人の指導にあたった。

【6月】

- 4日 昨年刈り取った茅、約 3000 束を福島の家民家に搬出。

(以上)

■第21回「定期総会」を開催 2022年度事業計画を承認、「飲水思源」の 志で流域コモンズを継承 報告 稲 貴夫

森林塾青水の第21回「定期総会」が4月9日度、中央区八丁堀区民館を会場に会員22名が参集して開催されました。総会は北山塾長の挨拶に続き、清水顧問が議長を務め進られました。全議案が全会一致で承認、可決された総会の概要をお伝えします。



○第1号議案「2022年度事業報告及び会計収支案」

北山塾長が以下の通り報告。上ノ原の茅を断熱材に提供した東日本大震災仮設住宅を担当した福島県土木部建築総室が昨年4月、日本建築学会の「復旧復興特別賞」を受賞。5月、6月の活動は新型コロナの影響で中止したが、「ゆるぶの森」案内看板を設置し、野焼きの代替措置として、自伐伐林業グループに茅場の除伐と拡張を委託。8月には上ノ原でオオナンバンギセルを発見。町田工業による茅の引き取りが困難な状況下、新たな引き取り先である千葉県鴨川市「小さな地球」が、茅出しに併せ約千束を積み込み搬出。残り3千束は降雪の前に自伐伐林業グループが搬出し町の倉庫に格納。また、映画「ラゲリより愛を込めて」のロケが上ノ原で行われた。

草野事務局長からは、9月に実施予定の「小さな地球」茅葺き活動への参加や、残り3千束の茅の引き取り先が福島市の民家に決定したこと等を補足。

○第2号議案「2022年度事業計画及び会計収支予算案」 草野事務局長が説明。茅の品質向上を目指し、今年は茅刈りの後に茅スグリを行い、新たな販路も開拓してゆくこと等について説明。続いて議長の指名で、松井、星見、井守、川端の各会員が野焼きの魅力や上ノ原の野鳥の特徴などについて発言しました。

新年度事業計画の骨子及び基本方針等は以下の通り

- ・都市、地元、利根川流域の住民が**飲水思源の志**でつながり、楽しみながら汗を流す。
- ・人と自然の**ほどよい関係**で、生き物たちでにぎわう上ノ原の「入会の森(茅場・ミズナラ林)」を持続的に保全・利用していく。

■基本方針

上ノ原「入会の森」の茅草原、ミズナラ林を保全しながら、自然の恵みを持続的に利用する仕組みを構築し、地域のタカラとして次世代につなげる。

■2022年度の重点取り組み

茅場保全と茅の利用(野焼き→茅の育成→茅刈技術向上→品質管理→販路確保)の安定的な循環の仕組みを目指す。

・リトリートなど「ゆるぶの森」の新しい活動を定着化させ、ユネスコエコパーク、ふるさと文化財の森、ユネスコ無形文化遺産、SDGs未来都市の理念に沿った上ノ原の活用を、都市住民、行政に幅広くアピールしていく。

・茅場の希少種の保全と増殖を試験的に行い上ノ原の総合的な価値を高める。

ベースの活動		今年度の新規または重点項目
茅 場	野焼き	行政はじめ広い層からの協力・支援の獲得
	茅刈り・運びだし 茅買上げによる茅活用 のしくみ定着化	現場でのスグリによる品質向上・輸送の効率化 茅スグリによる品質向上、新しい販路(連携先)開拓 記帳台の設置による、山菜取りなどの茅場の利用状況の調査
ミズナラ 林	二次林の若返り伐採と 資源の活用	抜き切りの推進、薪、木炭、木製品 リトリートプログラム活用 センサーカメラによる生き物調査(赤谷プロジェクトとの連携)
	自伐型林業の推進 ゆるぶの森整備	二ホンジカの調査捕獲(前年から継続) リトリートプログラムの推進 広報活動を通じて利用働きかけ
次世代へ の橋渡し	藤原小中学校との協働 環境教育のお手伝い	希少植物の栽培を通じた環境教育 麗澤中学校の環境教育受託
活動基盤	環境資源の発掘、掌握、 アピール 担い手の拡充 流域諸団体との連携	重要里地里山500、モニタリングサイト1000、昆虫等保護条例指定地、SDGsを意識した活動 茅刈新規参入者の促進、地域おこし協力隊、自伐型林業の研修参加者への働きかけ(前年度から継続) 大学など教育機関との連携、働きかけ 茅葺き文化協会のチャンネル活用

○第3号議案「2022年度役員選任」 今年度より新たに、現地在住の柳沼翔子会員を幹事に選任し、執行部を運営することが承認された。(右に役員構成を掲載)

最後に藤岡幹事、新人の竹淵会員から近況の報告があり、総会は終了しました。

◆2022 年度の主な活動計画・日程について◆

新型コロナウイルスの影響等により、延期、中止となる場合があります。参加申し込みの際には、必ず事前にホームページ等でご確認下さい。

月	主な活動予定(定例活動・楽習会・流域連携等)
4	総会・セミナー/9(土) 定例活動① 野焼き・山の口開け/29(金・祝日)・30(土)
5	麗澤中学校樹木観察会/28(土)
6	定例活動② 森林整備とリトリート/18(土)・19(日)
7	定例活動③ 防火帯刈払い、草原・歩道整備、自然環境モニタリング調査/16(土)・17(日)
8	武尊神社例大祭、藤原区民祭り、藤原湖マラソン(前夜祭、花火大会)など、地元で開催
9	定例活動④ 里山でリトリート(ゆるぶの森&諏訪神社)/3(土)・4(日) 日光茅ボッチの会訪問/期日未定
10	定例活動⑤ ミズナラ林整備/1(土)・2(日) 定例活動⑥ 茅刈り/29(土)・30(日) 茅刈りウィーク/31(土)～11月6(日) 麗澤中学校奥利根水源の森林フィールドワーク/期日未定
11	定例活動⑦ 茅出し、山の口終い/19(土)・20(日)
12	活動予定なし
1	流域連携活動、小貝川・菅生沼の野焼き/期日未定(後半の土日)
2	活動予定なし
3	定例活動⑧ キャンドルナイト・雪原トレッキング/11(土)・12(日)

通年及び開催月日未定の事業

- ・茅、希少種の育成状況モニタリング
- ・楽習会(首都圏部会中心に2、3回を予定)
- ・その他、藤原小中学校、NPO奥利根水源地域ネットワーク、全国草原サミット、自伐林業との相互交流を図る。
- ・地域貢献活動、車座講座の実施
- ・連携団体への上ノ原来訪・利用呼びかけ

◆今年度役員構成◆

～塾長・事務局長・幹事・顧問・相談役等紹介します～

塾長

北山 郁人 全般統轄
みなかみ事務所長(地元・みなかみ町役場ならびに支援企業との連携、資材等管理)

事務局長

草野 洋 全般にわたる企画・管理
全般統轄補佐
下流域部会統括

幹事

稲 貴夫 広報(「茅風」編集長)、東京楽習会、総会/セミナー 会計監査兼務
岡田伊佐子 麗澤中「樹木観察会/FW」、自然ふれあい学習、東京楽習会、総会/セミナー補佐

尾島キヨ子 麗澤中補佐「樹木観察会/FW」、下流圏プログラム補佐、茅刈り合宿
夏目啓一郎 地元の活動参画促進、NPO 奥利根水源ネットワーク、地域貢献プログラムほか

西村 大志 WEB 管理、助成事業、広域連携補佐(草原再生ネット、草原サミット)、麗澤中(統括、窓口)

藤岡 和子 児童青少年の教育プログラム企画実行、コモンズプログラム企画開発、茅刈り合宿補佐

増井 太樹 広域連携(草原再生ネットワーク)
松澤 英喜 事務局長補佐(予算管理、会員管理、総会、幹事会ほか)、助成事業補佐、WEB 管理補佐、会計・出納

柳沼 翔子 現地活動塾長補佐、プログラム企画開発補佐

吉野 一幸 地元代表

顧問

安楽勝彦 笹岡達男 滑志田隆 清水英毅

オブザーバー/相談役

高橋 英俊 行政/みなかみ町役場窓口(環境政策室)

林 親男 地元関係相談役(藤原案内人クラブ)

川端 英雄 アドバイザー

本メンバーで一年間、青水を運営します。
皆様のご協力をよろしくお願い致します。

新幹事から一言ご挨拶申し上げます

柳 沼 翔子

このたび森林塾青水の幹事に着任いたしました柳沼翔子と申します。光栄なお役目をいただき、誠にありがとうございます。

私は現在、みなかみ町にて自伐型林業の推進に携わり、林業で手入れをした森に人を招き、「リトリート」という活動をしています。群馬県は「リトリートの聖地」を目指し、雪国観光圏では雪国リトリートという取組が始まり、自然と人との距離が近づいているのを肌身で感じています。

その中でも、「里山の手入れ」をしていること、そしてそのフィールドが「流域コモンズ」であることが私たちの活動の大きな特徴であり、意義深いことだと思っています。

ベストセラーになった斎藤 幸平氏の『人新世の「資本論」』の中では、資本主義のその先の希望としてコモンズが紹介されており、今多くの人たちが日本の「コモンズ」に注目しています。上ノ原を流域コモンズとして美しく再生してきた皆様に心から感謝しています。

上ノ原の再生に関わり、ここで「コモンズ」の形を追求し、自然と、みなかみ町と、みなかみ町以外の人の交差点に立ち続けることが、社会全体、地球全体のシステム変容に関わると信じており、それに挑戦したいです。

■セミナー 林 良樹 小さな地球代表理事 小さな地球のめざすもの

報告 稲貴夫

総会セミナーの講師は、千葉県鴨川市でNPO法人うず理事長、小さな地球代表理事をつとめる林良樹さんです。林さんは昨年、日本茅葺き文化協会の仲介により上ノ原の茅の引き取り先として名乗り出ていただき、11月の茅出しの際にはトラックで駆け付け、約千束の茅を引き取って戴きました。セミナーでは、茅葺きに取り組むことになった経緯と共に、小学生時代のある事件から、現在の活動拠点である鴨川にたどり着くまでの物語をお話しいただきました。地域に密着した取り組みの下地となっている構想の雄大さに、参加者一同聞き入りました。

居場所を探し求めて

林さんが小学校二年生の時、担任の星野先生は子供たちに、先生の名前を書くよう言いつけました。絵を描くのが大好きな林さんは楽しいアイデアを思いつき、「☆野」と書きました。すると親が学校に呼び出されました。予想と正反対の展開にショックを受けて以来、林さんは自分の居場所を探し求めるようになりました。その自分探しの旅は、大人になると日本からアメリカへと場所を移しました。アメリ

カ大陸をハーレーで旅行中、アメリカ先住民から「ミタクエ・オヤシン(すべては一つ)」という価値観を学び、彼らが大人へと旅立つための通過儀礼「ビジョン・クエスト」の話を聞いた時、今度は地球をめぐる旅へと発展していきます。

そして今度は世界各地で様々なメッセンジャーと出会いますが、イタリアで「日本の田舎へ行きなさい。もう世界を旅するのは十分だろう、君の国には世界がお手本とする文化がある」との言葉に出会ったのがきっかけで、日本に帰ることになりました。そして最後にたどり着いたのが、千葉県鴨川市の釜沼集落でした。

日本の田舎へ行きなさい

もう世界を旅するのは十分だろう、
君の国には
世界がお手本とする文化がある

人間と自然、都会と田舎を結ぶ茅葺きプロジェクト

それから20年以上が経過した現在、NPO法人を母体に、釜沼北棚田オーナー制や現代版物々交換のための地域通貨あわマネーなど、近代が分断してしまった人間と自然、都会と田舎とのつながりを新たな観点から取り戻すための活動を展開してられました。

青水と関係する切っ掛けは、3年前の9月9日に関東地方に上陸し、千葉県を中心に甚大な被害をもたらした台風15号でした。毎秒50メートルの強風に、林さん一家が済む古民家はガラス戸が割れて中がメチャメチャになり、屋根を覆っていたトタンもすべて吹き飛んでしまいました。翌日、復旧のために動き出した林さんは、裏山から嵐の過ぎ去った青空の下に、トタンの覆いが外れて顔を出した茅葺き屋根の自宅を「発見」。その美しさに感動した林さんは、台風で傷んだ古民家を元の茅葺き屋根として再生することを決意しました。

こうして林さんの地球を駆け巡ってきた長い旅は、南房総の集落に里山コモンズを再創造して原風景を蘇らせるという、小さな地球プロジェクトとして結実しようとしています。青水の今後の活動にとっても、非常な刺激となるお話しでした。

ウェブサイトは
<https://small-earth.org/>

左が林さん。最後に安楽顧問が感想とお礼を述べる。



■2021定例活動⑥

「雪原トレッキングと自然体験」

報告 稲 貴夫

3月12日、13日の両日、定例プログラム「上ノ原雪中トレッキングと自然観察」を実施しました。一年前のプログラムは緊急事態宣言の延長を受けて、参加者を群馬県居住者に限定し少人数での実施となりましたが、今年は県内からの8名を含む会員、会友23名が参加し、実施することができました。



一日目はスノーシューを履いて、透き通るような青空の下、真っ白な雪の上ノ原を散策。今年の冬は降雪が多く、最近暖かな日が続いたものの、上ノ原の積雪はまだ2メートル。一行は冬芽の芽吹きなどを観察したり斜面をお尻で滑り降りるなどして楽しんだ後、メープルシロップの原料となるメープルウォーターを採集しました。採集と言っても、既に北山塾長が上ノ原草原のほぼ真ん中に立つイタヤカエデに1週間前から専用の器具とタンクを装着。すでにタンクにはチューブを通してメー



プルウォーターが溜まっていたので、後はチューブを外すだけ。チューブを外すと、直接メ



ープルウォーターで喉を潤そうと、イタヤカエデの根元に仰向けに寝ころび、木の香りのする雫を口に受けて楽しむ行儀の良い参加者も現れました。(写真・上2枚)

タンク二つ分約10ℓのメープルウォーターを採取してから、上ノ原の入口の看板がある所へ移動。看

板は雪に埋もれて見えませんが、こんもり雪が盛り上がっていたので、上の部分だけ掘り出して記念撮影をしました。(写真・左段下)

この日の宿は「ロッジすぎな」。おいしい料理に舌鼓を打ってから交流会で今日の疲れを癒しました。

二日目は、氷筈のみられる大幽洞へのスノートレッキングを過去最大人数の19名で実施しました。参加者は8時前に宿を出て武尊山登山道入り口で車を降り、それぞれスノーシューやかんじきに履き替えてから雪原に全員集合。リトリートの手法を取り入れた瞑想や準備体操をしてから出発しました。

心配した天気も曇り空のままで、順調に大幽洞までトレッキング。最後の急勾配の難所も乗り越えて目的地に到着。ここ数日間は暖かだったせいか、氷筈は例年のこの時期より細く小さくなっていましたが、私たちを優しく迎えてくれました。帰りはいつものように、下り坂では両手両足を上げ、おしりをソリ代わりに滑り落ちながら、全員無事に帰着しました。

その間、宿に残ったメンバーは、宿の玄関先を借りて、薪ストーブでメープルシロップづくりに挑戦。シロップにするには、本来は原液のメープルウォーターを40分の1に濃縮しなければならないので手間のかかる仕事です。今回は20分の1で時間切れ。トレッキングのメンバーが宿に戻った頃には、コップ三杯程度の茶色いメープルシロップが出来ていました。

このシロップで紅茶を入れて昼食後にいただきました。木の香りがして紅茶の渋みもほどよく心身が癒されるような不思議な味です。どこかのカフェで出せば立派に商品なるでしょう。確かな春の足音を感じる藤原でそれぞれ2日間の疲れを癒すことができました。



上 大幽洞まであと一息
下 氷筈



薪ストーブで濃縮する

■2022定例活動①

「野焼き」

報告 草野 洋

昨年、一昨年とコロナ禍で中止を余儀なくされた茅場保全の最重要作業である「野焼」が、4月29、30日に3年ぶりに行われた。

今年は豪雪であったので、雪の解け具合を心配して、2週間ほど前から重機で雪を掻き均す作業を実施していたが、28日に前日入りすると周囲には残雪があるが茅場は雪が消えていた。しかし、ススキは濡れ髪のように地面に張り付いていた。

それに明日は雨の予想。本番の野焼き着火は30日10時予定。そこで作戦を変更、防火帯刈りは最低限にして、風を入れて乾燥させることで燃えやすくするために、寝ているススキの掻き起し（毛羽立て）作業に参加者にやってもらうことにした。そしてこの日は、清水初代塾長をは

じめとする古参会員有志の寄付による「飲水思源」の標柱を十二様の前に「御柱」として奉納、除幕する準備を

十二様の近くに御柱を設置

して祈禱旗「タルチョ」を掲げ、明日の道具を準備するとともに、毛羽立て作業を行った。

プログラム1日目は曇天の中、42人が参集。明日はこれに15名が加わる予定である。

雨の心配もあって昼食前に十二様の前で「山の口開け」を行う。北山塾長が斎主をつとめ、上ノ原の風景を盛り込んだ厳かな祝詞が奏上された後、「飲水思源」標柱を除幕して清水顧問が解説。続いて皆で拍手を打



ススキが寝た茅場と満開のオオヤマザクラ(別名、にぎわい桜)



って、一年の作業の無事を祈り、自然の恩恵に感謝、直会は極上の佐渡のお神酒で乾杯した。

そして昼食後は、昨日の計画通り、参加者は手分けして火入れ場所の毛羽立て作業を行った。(写真・右下)

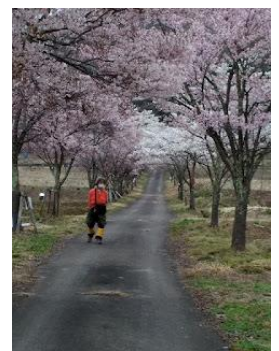
長年上ノ原に通い続けた経験から、15時には雨が強くなると「観天望気」。案の定14時半ごろには服も濡れるような雨脚となった。コロナ禍で風邪をひくと紛らわしいので、宿に引き上げ着替えてから、前日下見した「明川の桜の郷」の花見ツアーを行った。(写真・右)

この日の宿は「とんち」。夕食後は恒例の車座講座、その前に上ノ原に設置する記帳台のコンセプト・デザインを披露。車座講座は野焼の前夜にふさわしい稲幹事の「火と神道文化」。現代の暮らしにも生きる神々の世界を解説いただく。交流会に集まったメンバーは、植物の専門家、ランドスケープ・造園の大御所、野焼の研究者、プロ写真家、野鳥専門家、地域おこしメンバー、学校教師など多士済済。豊富な話題で大盛り上がり。

さて、野焼き本番の日を迎えた。昨夜は山沿いは雪との予報で、宿の周辺はしとしとと冷たい雨が降っていた。朝6時に早起きして上ノ原に行ってみると、周りの林はうっすら雪化粧、茅場も白い。今日はダメかと一旦気落ちしたが、陽射しが出そうな青空も出てきたので、風速2~3mぐらいの風も期待して、着火を1時間遅らせた上でやるだけやろうと決めた。それまで参加者には「ゆるぶの森」を散策してもらうことにして、小幡さんと川田さんにインストラクションをお願いした。



平和を祈るタルチョと「飲水思源」の御柱



散策「クロボクの説明」

予定の午前 11 時、4 者会議で野焼き実施を決定。3 ブロックのうち風上にある北側から着火、可燃物も多く、傾斜もあり、毛羽立ても良くできている一番燃えるであろうと予想したブロックは 2 番目にやることにした。通常はやらない風上からの着火でも問題ないくらい予想にたがわず燃えが悪い、炎は上がらずくすぶった水蒸気の多い白い煙が茅場を覆い、ジェットシューターもあまり出番がない。それでも何とか黒色の茅場が増えていき、2 番目のブロックでは茅の管がはじける音も聞こえた。



朝日岳をバックに
(右上)
一番燃えたシーン
(左下)

そしてトラ刈り模様の末黒野がまがりなりにも現れ、1 時間遅れの 12 時半過ぎに鎮火。今年の焼け具合は「レア」だが茅場保全の重要な作業を無事終了した。



末黒野をバックに記念撮影

本稿の写真提供者

中塚、清水、尾島、西村

■東京楽習会 講師 加藤 政実(加藤木材代表)

【百年杉】とわたしたち

報告 稲 貴夫

コロナ過が続いて暫く開催することの出来なかった東京学習会を、ようやく第六波も納まりつつあった 3 月 26 日(土)、久しぶりとなる楽習会を中央区の人形町区民館で開催しました。

この日は、『百年杉』の普及を通して、健康的な暮らしの実践活動を展開している百年杉専門会社加藤木材の加藤政実さんを講師に、27 名の会員および関係者が参加しました。

学名「クリプトメリアヤポニカ (Cryptomeria japonica)」が示す通り、日本の固有種である杉は、まっすぐ大きく成長する特性を生かして、建築材など様々な場面で、日本人の生活を支えてきました。近年は花粉症の原因など、何となく悪いイメージで語られたりしますが、加藤さんは、樹齢百年の杉が私たちが健康的な暮らしを維持していくために大きな力を秘めていることに、自身の体験や探求を通し

【百年杉】とわたしたち



て気づき、子どもから大人まで様々な場面で杉材の活用、普及を通して、人々の健康増進に取り組んでいます。この日は、『【百年杉】とわたしたち』の

テーマで、『百年杉』から脳の発達と維持を考えると、実に興味深いお話をいただきました。お話しのポイントを次の通り簡単にまとめてみました。

床やベッドを【百年杉】にした顧客の感想は、「いびきの喪失や軽減と睡眠の質の向上」「夜間中途覚醒の消失と回数減」「子どものおねしょの消失」「副鼻腔炎の症状の消失・軽減」「腸の活性化」「アトピー性皮膚炎の軽減」「スギ花粉症の軽減」などなど。何故、百年杉にこんな力があるのか、科学的な説明は困難ですが、現代科学もこの分野では未熟であると感じた加藤さんは独自に探求を続けます。そして、○皮膚は光や音、香気成分、味覚を認識し、空気中の酸素濃度も感知、反応するなど驚きの能力―目や耳を超える五感を有することがわかってきた。(傳田光弘著『サバイバルする皮膚』河出新書などより)



排泄と睡眠と呼吸と【百年杉】の関係は？

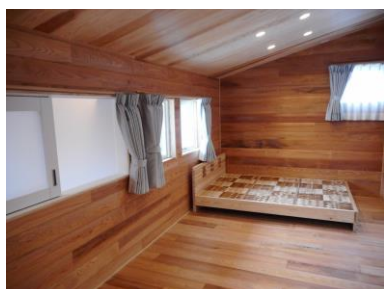
○指先や足裏、身体中の皮膚の触覚情報(刺激)によって、人類は脳を発達させてきた。また、新生児にとって触覚刺激が、脳の発達に最も重要な刺激である(京都大学・明和政子博士の研究)とすると、視聴覚情報一辺倒の現代社会に問題はないか。

○触れて～触れられて最も心地よい素材は「人肌」であり、それ以外は紙、布、土、木など植物由来。その千年を超える記憶が「心地よさ＝安全な素材」として継承されているなら、現代社会に溢れている物質は、どんな情報を脳に届け続けているのか。

他にも呼吸や睡眠など、健康に対する様々な観点から【百年杉】の可能性を引き出しつつ、全体のバランスが崩れてしまった現代の人間生活のあり方についても非常に考えさせられるお話しでした。加藤さんの今後の探求の成果も楽しみです。

※御参考

ウェブサイト『百年杉』の専門会社 加藤木材



<https://woody-katoh.com/>

で、【百年杉】に関する様々な情報をご覧になれます。

麗澤中学校樹木観察会

五月晴れの中、三年振りの実施
～五感を使った「気づき」と「体験」～

報告 西村 大志

5月28日、五月晴れの中、千葉県柏市にある麗澤中学校一年生の樹木観察会を行いました。新型コロナウイルスの影響で一昨年、昨年と中止になっており、3年ぶりの開催でした。青水とその協力者の15人がインストラクターとして参加し、5クラス165人の生徒たちと、麗澤学園内を歩きながら樹木の成長、種子の散布方法、周辺環境との関係などをテーマに観察を行った後、教室に戻って小グループで発見について話し合い、発表を行いました。



今年の生徒たちは特に反応が良く、樹によって葉のフサフサ感が違うことを面白がる子、年輪のでき方についてじっくり考える子、初めて掘り返した土の柔らかさに驚く子、種の模型の飛ばし方を試行錯誤する子、糸を伸ばして飛んでいくクモに感動する子など、様々な気づきの場に立ち会えました。発表の時には、集めてきた葉や種をきれいにレイアウトしたり、意見をグループ分けしたりと工夫も見られました。インストラクターが教えていないことを話してくれた子がいたのも印象的でした。



樹木観察会では、知識を学ぶことももちろんですが、一番大切にしているのは、このように体験や交流の中で生徒たちの「気づき」を引き出すことです。五感を使って自然を感じ、知識と結び付けたり人と話したりする中で何かに気づく、そんな体験を少しでもしてもらい、秋にみなかみ・上ノ原に来た時に自分の中にたくさんの収穫を持ち帰ってくれたら良いと思います。

藤原だより-現地事務所報告-

上ノ原に念願の記帳台を設置しました 北山 郁人

○上ノ原で火災発生

5月18日に上ノ原に遊びに来ていた地元の方が、広場付近で火災を発生させてしまい約790平米ほど焼けました。幸い普段から森林塾が茅刈りと野焼きをおこなっているおかげで、可燃物が少なく大きな被害はありませんでした。しかし、入り口付近の灌木が生え、手入れがされていない部分では、樹木の葉が5mほどの高さまで焦げているので、かなり炎があがったと思われます。藤原の消防団と水上高原ホテルのスタッフがいち早く駆け付け初期消火ができたことにより、最小限の被害で抑えることができました。これから、山菜取りで多くの人を訪れるシーズンになるので、火災には注意が必要です。



入口看板、十二様と御柱から十郎太沢の間が延焼。
奇跡的に看板も御柱も無事でした。

○記帳台が完成

その翌日に、上ノ原に念願の記帳台が完成しました。1日早かったら燃えているところでした。現代美術のような素敵な佇まいの作品となりました。作っていただいたのは、地元みなかみ町の工舎澄み処(スミカ)のみなさんです。ワラビが沢山とれるこの時期は多くの方が上ノ原を訪れます。この記帳台を通じて、森林塾の活動について、知っていただける方が一人でも増えることを願っております。



完成した記帳台 訪れる人たちに活用いただきたい。

○上ノ原の茅を福島に古民家に搬出

6月4日に昨年刈り取った茅が無事にお嫁に行きました。福島県の宿泊施設の古民家に使われるとのこと。600ボッチの茅は、10トン車2台に満載で何とか収まりました。これで、茅刈りをしていた皆さんの苦労が報われます。ありがとうございました。



無事に旅立った
上ノ原の茅。古
民家の屋根材と
して生まれ変わ
った姿も、是非
見てみたいです
ね。

■野守のつぶやき(23号)

～縦横無尽の展開が始まった「流域コモンズ」～

●画期的な事が起った野焼き(22年4月29～30日)

・参加 50 余名の何と 3 割が地元群馬県民！上ノ原での活動歴 20 年弱の中であり得なかった現象。何故？



当地・藤原、沼田、前橋、伊勢崎に加え嬭恋村からは 5 名も。村内を流れる吾妻川は渋川で利根川に合流する名流。いずれも、利根川「流域コモンズ」仲間である。

●あらためて、「流域コモンズ」活動の振り返り

・当塾発足の翌々年・02年 9 月、現代版「入会慣行」を考える会を発起。参加 15 名。以後、筒井迪夫 三井昭二 宇沢弘文 他の諸先生に学びつつ学習・意見交換会を重ねること5回。

・03年4月に元・入会地であった水上町の遊休地(上ノ原)を借り受け、利活用させてもらうことに。以後、地元古老衆との「入会慣行」ヒアリングなど重ねつつ現代版「入会」(＝流域コモンズ)構築の取組が始まった。

・同年 10 月には茅刈り、翌 04 年 4 月には野焼きを実施。未だご壮健だった古老衆の手取り足取りのご指導のもと、アカマツの小枝で作った火付け棒で雪間を焼いて行ったことが懐かしく想い出される。

・利根川の下流域で合流する小貝川や菅生沼の野焼き仲間との交流。もう何年経ったのか。河畔林や沼沢地のヨシ焼き(→)、希少生物種保全中心であるが、学ばせていただく事の多い坂東太郎つながりのコモンズ仲間。



・魅力的な活動で“楽習機会”が多い日光茅ボッチの会。裏日光・土呂部にあって希少植物を大切にしている。



土呂部川→大谷川→鬼怒川→利根川のコモンズ仲間。フィールド特性を生かしたメープルシロップ作りや野花の生け花、野点、森のハーブ・コンサート(←写真)など楽しいプログラムをさりげなく！

・昨秋お付き合いが始まったのは房総・鴨川の NPO 法人小さな地球。地元古民家の再生に必要との由で、上ノ原の茅を使っただけのことになった。「水源地である水上の茅(流域のコモンズ)はやがて利根川最下流の房総半島の古民家の茅葺屋根(里山のコモンズ)になります」とは林代表のお言葉。嬉しい限りではないか！

・最も新しい出会いは今春、福島県の建築士事務所

幹部とそのお仲間。地元老舗旅館の改修に茅が必要の由。東北大震災の折に会津若松の仮設住宅用屋根断熱材として茅を供給させていただいたが、いずれも日本茅葺文化協会からのご紹介によるもの。改めて、深謝。流域を越えた「コモンズ仲間」という事になるうか。

●実はこの先も、何か起こりそうな予感が！

・野焼きに参加した柳沼幹事の友人達は、上ノ原を「交換不可能な」「かけがえのない森」と認識している由にて、今年の茅刈りもしくは茅出しにも参加を決定。

・また、東京の「読書会」に参加する若者15名余が上ノ原でリトリート体験をする由。そして、主催者のK氏は「喫茶店を営みながらコモンズに可能性を感じて」おられるという。こうした新しい仲間たちと、これからの上ノ原や新しいコモンズの在り方を共に考えていきたいもの。コモンズの縦横無尽の展開が始まる予感！

●麗澤学園「樹木観察会」(22年 5 月 28 日)

・顧みれば、「流域コモンズ」仲間として一番長いお付



き合いは柏市に立地するこの麗澤学園ではないか。04 年来、中学 1 年生対象に五感による“自然ふれあい学習”を春の柏キャンパスと秋の水上を行来しつつやってきた。水源

の雪解水を集めた利根川は、やがて三郷浄水場あたりで柏市内の家庭や学校向けの水道水になる。

・学是は「仁及草木」。右写真はその実践の姿。生徒達は“突き抜け”と呼んで親しんでいる。素晴らしいことではないか。SDGs時代の行動規範では！



御教養は「仁及草木」に
子供の日 (青)

令和4年麦秋

～編集後記～

三年ぶりの野焼きは雨の影響を受けましたが、全員の協力で無事に終了することができました。

火は不思議な存在です。火を利用して文明生活を営む現代人も、扱いを誤ると制御不能となり、甚大な被害を受けることもあります。

日本の神話では、火の神カグツチを生んだイザナミはその火で焼かれ死にますが、そこから新たな神々が誕生しました。母親を焼き殺したカグツチからは山の神々が誕生しますが、その神々やイザナミが生んだ山、野、草、木の神々こそ、上ノ原の十二様に祀られている十二柱の神々です。

火の神から山の神々が誕生したのは、歴史以前からの野焼きや山焼き、焼き畑農耕の記憶によるのではないかと、そんな気がします。(稲)